

【中長期目標(学校ビジョン)】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

【今年度の重点目標】

- 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現
- 「人間性」の育成
- 地域と連携した学校つくりと魅力化

	具体項目	令和4年度当初			評価結果(9月)		
		現状及び課題	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現	基礎学力の向上	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎学力の向上感は約90%を超えており、取組の方向性に期待感が増してきている。 基礎力診断テストのD3ゾーンの生徒数20%減を達成し、基礎学力の定着とそのための学習への取組状況が一定程度改善されてきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が向上感を覚えている場合でも、その基礎学力が高校学習水準に到達していないケースも散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力の向上感が85%以上になっている。 1・2年生の基礎力診断テストにおいてD3ゾーンの生徒数が年度始めより50%以上減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科でのリスタート学習の取組を全体で共有して実施する。 基礎力診断テストにおいて事前事後の取組を行う。 授業アンケートの結果を踏まえて生徒の視点から学習指導を行う等の授業改善に取り組むとともに、学び方の指導も含めて生徒の主体的な学びを啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年と連携を図りながら各教科でリスタート学習に取り組んでいる。生徒の基礎学力の向上感は約87%と高く、学校全体での取組成果が出つつある。 基礎力診断テスト事前説明については1年生のみ実施。(2,3年生については日程調整ができていない) 基礎力診断テスト後の取組として、結果分析の仕方や生徒への還元方法に係る教員研修会を行った。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果を基に各教科担任が授業改善に取り組む。 互見授業を推進し、生徒が能動的に取り組める授業デザインと評価について実践と研鑽を積む。 基礎力診断テストの分析検討会を教員研修として実施し、生徒個別面談での具体的な目標設定や課題解決につなげるとともに教科指導においても有効活用する。 第2回基礎力診断テストについて事前事後の説明を行い、動機づけ及び基礎学力定着や学習習慣確立への道筋とする。
	キャリア教育の推進	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ジオパーク学習(1年次)やイワツツミッション(2年次)等の地域探究学習及び各類型の特徴を生かしたキャリア形成支援企画等とおして、課題解決能力や自己理解支援を進めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来、社会人としてどのように活躍できるかについてのイメージが希薄である。 自分の興味・関心、適性や可能性等を見出せず、自らのキャリア形成を主体的に進められない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との活動をとおして様々な世代の人々と触れ合い、より広い世界に目を向けられるようになっている。 生徒の90%以上が本校の教育方針を認識している。 進路実現に向けて行動を起こしている生徒が80%以上になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任等による個人面談及び進路指導部面談等を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> → 生徒が自分では認識できていないかもしれない可能性や特長に気づかせる。 キャリア・パスポートを活用する。 <ul style="list-style-type: none"> → 講演会等での気づき等を言語化・可視化することをとおして自分の興味・関心、適性等について考察させる。 → 生徒の行動と実社会との関わりについて考察させ、より広い進路展望を拓かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(7月)結果によると、「本校の教育方針を認識している」と回答した生徒は81.8%であった。「進路実現に向けて行動を起こしている」と回答した生徒は69.1%であった。いずれも目標数値を下回っている状況にある。 進路志望調査実施後に、担任及び進路指導部専任が未来志向及び課題解決型の生徒面談を行うとともに、主体的な情報収集や志望先のweb説明会等への積極的な参加等を促している。 キャリア形成に係る諸行事後、時間を十分に確保して「自分のことば」でレポートを作成することをとおして自己との対話を促す取組を継続中である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導やキャリア形成に係る企画や事業に取り組む際、何を目的に、どのような目標に向かって取り組むのかについて、教員が共通認識を持ち、生徒に適切に動機づけできるよう進路指導部が主導する。 生徒の変化変容を学年の枠を超えて共有し、タイミングをとらえた個別面談に取り組む。(小規模校の強みを生かす) ICTも活用して、進路指導部がクラス担任の生徒指導用資料・ツール等を随時配信・提供する。
	進路実現	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月卒業生の1年以内の離職率は6.3%となっている。→低い水準で推移 令和3年度3年生の進路目標達成率は100%。第1志望での合格・内定率は93%であった。 令和4年度公立鳥取環境大学入試に2名が出願し、2名とも合格した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な進路情報収集及び開拓の意識が低い状況がある。 現状に満足し、より高い目標にチャレンジしない生徒がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標達成率100%となっている。 第1志望での合格・内定率が95%以上となっている。 より高い目標を掲げてそれを実現するために具体的な行動する生徒が増えている。 就職1年以内の離職率が県平均以下となっている。(参考：令和2年度3月卒業生分鳥取県平均離職率7.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路志望調査「後」の個別指導を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> → 生徒の主体的な最新進路情報の収集を啓発 → 高い目標を掲げ、進路実現に果敢にチャレンジさせる指導の強化 各種ガイダンスや事業所説明会等を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> → 狙いと目的の明確化 → 社会が求める力を把握し、その力を習得するための方策を具体的に指導 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学進学希望者が増加傾向にある。大学進学対応公営塾の参加者や英検受験者も増加。より高い目標を設定し、果敢にチャレンジしようとする生徒が増えてきている。 県内外の新型コロナウイルス感染状況に応じた代替事業を含め、進学・就職ガイダンスや事業所説明会等を効果的に実施できている。 本校卒業生1年以内離職率については、令和3年度3月卒業生が12.5%、令和4年度3月卒業生が9.8%となっている。(令和4年8月末現在) 	C	<ul style="list-style-type: none"> 既存の「国公立大学合格プロジェクト」等、より高い目標を実現するための進路指導フレームワークを再構築し、全教職員が関わる取組とする。(中期展望) 進路行事を精選するとともに、前後の行事との関連及びその狙いや意義について教員間で共通認識を持って臨む。 秘めた可能性や伸びしろ等について生徒との6～7分程度の短時間面談を励行し、主体性や意欲、高い目標設定を啓発する。
2 「人間性」の育成	<p>基本的な生活習慣とマナーの確立</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装検査で再検査となる生徒数は10～20%。ほとんどが軽微な違反であり、各学年で細かく指導をしている結果である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度学校評価アンケート(12月)の生徒の回答をみると、校則やマナーの厳守、挨拶や返事の意識は高いが、授業の開始時間や集会の集合時間にルーズさが散見される。 令和3年度歯科検診において虫歯があると診断された52名のうち、令和4年1月時点までに通院し、治療を受けた生徒が26名(50%)となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒が10%以下になっている。 挨拶、返事、頭髪服装等の基本的な生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が80%以上となっている。 歯科検診において虫歯があると診断された生徒のうち、60%以上の生徒が通院し、治療を受けている。 TEASの取組を通して、ゴミの分別・減量化やエアコン等使用電力量の削減に意識して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導と定期的な全体指導を充実させる。 指導部ノートを有効活用する。 生徒・保護者に丁寧に説明するとともに適時な連携による指導を徹底する。 「報告・連絡・相談」を徹底し、各学年、授業担当者と緊密に連携する。 歯科検診後、当該生徒及び保護者に速やかな受診・治療を促すとともに、保健日より等をおして啓発し、歯科検診前の個別指導も行う。 TEAS研修会を実施するとともに時宜を得て指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装検査で再検査となる生徒数は例年並み。各学年でのきめ細やかな指導成果である。 学校評価アンケート(7月)生徒回答結果をみると、校則やマナーの厳守、挨拶や返事に関する意識は高い。 歯科検診時にその場で個別指導を行い、受診・治療を促すとともに、1学期末個別懇談時に未受診生徒保護者に受診を促した結果、受信する生徒の比率が増加傾向にある。(昨年度比) 保健日よりを毎月発行し、歯科受診の必要性や虫歯が体に及ぼす影響などについて分かりやすい内容、身近な内容で啓発を行っている。 TEASに係る校内規定及び校内組織についてより実効的なものとなるよう改定し、職員・生徒に周知するとともに目標の達成に向けて取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全校朝会、頭髪服装検査時に校則遵守、携帯使用のマナーについて再度徹底する。 保健日よりや保健室掲示を活用して受診の必要性を伝える。 受診のお知らせを複数回配布し、受診の徹底を図る。 当該生徒を対象に保健指導を個別に行い、啓発を強化する。 	

	部活動の振興	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動全員加入を原則としており、令和4年度当初時点で未加入者は2名。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少に伴い、部員確保が困難な部活動がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が部活動に加入している状態が継続している。 部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動指導計画に基づいた適切な運営をとおし、技術向上のみならず人間的な成長を支援する。 本校の実態及び将来像に即した部活動の精選を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月末段階で部活動未加入者は0名である。 部活動に真面目に取り組んでいる生徒の割合は減少しており、部活動を通して礼儀、マナー、忍耐力等が身に付いていると認識している生徒も減少している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部長会や全校集会等のあらゆる機会を通して部活動に係る取組についての啓発活動を行う。
	多様な生徒理解及び自己有用感の伸長	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> SNSを巡る問題は常に少なからず発生していると認識はしているが、大きなトラブルに発展した事案は発生しなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒理解のための取組を継続する必要がある。 <p>(参考：令和3年度生活満足度調査結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が安心安全な場所と感じている生徒 61% 学校の日常生活で困っていることがある生徒 22.9% 学習面で困っていることがある生徒 11.4% 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの利用に係るマナーやモラルを守ることができている。 周囲に配慮した言動ができるようになっていく。 学校が、生徒にとって安心で安全な場所になっている。 生徒一人ひとりが自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動している。 全教職員が、生徒の発達段階やニーズに応じて援助・支援している。 <ul style="list-style-type: none"> → 岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が80%以上となっている。 	<p>〈集団指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講演会等を早期に実施する。 全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、スマートフォンの扱い方や、SNSの危険性について啓発活動を行っていく。 <p>〈個に応じたサポート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒観察及びアセスメント 個人面談や個別学習指導 保護者や関係機関との連携等 <p>〈教職員向け情報発信〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己理解、他者理解を深め、自己有用感を高めるためのヒント等を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度生活満足度調査（5月）の結果では、「学校が安心安全な場所である」と回答した生徒は63.4%であった。 また、「学校の日常生活で困っていることがある」と回答した生徒が13.8%、「学習面で困っていることがある」と回答した生徒が24.6%であった。 生徒理解のための取組としてhyper-QU研修会を行い、協同的・対話的なケーススタディをとおして多面的な生徒理解及び多様な対応・指導について検討した。 hyper-QU及び生活満足度アンケートの結果から、侵害感や学校生活に悩みのあると思われる生徒に対しては、学年団で共有した上で担任や保健相談係による声かけ、面談等を即的に行った。 生徒から寄せられる悩みに係る話題で「教育相談だより」を構成し、毎月発行。心身の健康を図るための啓発を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の困り感を解消するため、引き続き丁寧に、個に応じたサポートを継続する。 生徒の自己理解及び他者理解を高めるための生徒対象講演会並びに教職員対象研修会を11月に実施予定である。 すべての生徒が学習内容を理解できる授業及び岩美高版UDを意識した授業実践および生徒の実態を踏まえた指導上の工夫を継続的に行う。 外部専門機関との連携をより深め、教職員間で情報を共有し生徒理解に繋げる。
3	地域と連携した学校づくりと魅力化	<p>10年後、20年後を見据えた岩美高校のあり方創出</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報発信強化により中学校等に本校の魅力が伝わり、本年度新入生数が増加した。 進学及び就職実績100%を達成。国公立大学を含め4年制大学進学者の割合も増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動の魅力が十分に地域に伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各類型の学習内容の魅力が効果的に発信でき、積極的に地域との交流が図れている。 高校が地域の方に誇りを持ってもらえるような存在になっている。 地域コミュニティの拠点となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 岩美高校あり方検討委員会を組織し、具体的に検討する。 広報担当を分掌に組織し、業務の充実と効率化を図る。 各類型の特性をより活かした教育活動を工夫するとともに内外への広報を強化する。 各類型の学習内容の検証・改善を恒常的に行う。 生徒が地域貢献を自分事としてとらえる地域貢献活動の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校紹介DVDや学校案内用チラシ及びポスターを作成し、管理職が中心となって県内外の中学校において積極的な広報活動を行っている。 生徒の生き生きとした学校生活の様子を画像とともに学校HPでこまめに報告するとともに、県教育委員会公式ツイッターにも随時投稿し、発信している。 生徒の自主的な地域貢献活動や公営塾、部活動の取組等について全国紙、地方紙で記事化され、本校教育活動の地域認知度が高まりつつある。 「岩美高校あり方検討委員会」を発足し、学級減に対応した教育課程及び地域連携をより強化した探究学習プログラムの再編等について具体的な検討が進行中である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を有効に活用し、具体的な地域学校協働活動に着手する。 「岩美高校あり方検討委員会」を継続するとともに、議論内容を教職員間で随時共有し、「中学生が行きたくなる学校づくり」を実現するための具体策について検討する。 学校設定科目の新設も含め、地域を資源及びフィールドとした地域人材と連携したりする「社会と繋がる学び」を強化する。（中・長期展望）
	イワッツミッションの発展・充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携・貢献が生徒の育成に効果を上げていると感じている職員の割合は7割程度である。 地域と連携した活動に対し、概ね理解が得られ、協力体制ができている。 第2学年の地域探究型学習では、類型制の特徴を生かした取組を行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が低下してきている。 企画・調整・運営等を行う担当教員の負担が大きくなっている。 	<p>地域連携、地域貢献の取組を通して、自らが居住する地域を支える存在であることを理解している生徒を育成する。</p> <p>→「地域の行事や活動に参加した延べ人数」（授業として参加するものを除く）が学校全体の生徒数以上となっている。</p> <p>→地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力の育成に効果を上げていると思う職員の割合が85%以上となっている。</p> <p>→「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が全校の90%以上となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域探究型学習（イワッツ・ミッション）を地域連携の核と位置付けて取組を進める。 <ul style="list-style-type: none"> → 活動内容を充実及びそのための授業時間の確保 → 岩美町役場等と効果的な連携を構築 生徒の探究的活動に係る基本的なスキルの向上を図る。 校内ワーキンググループを発足し、これまでの成果と課題を基にプログラムのスキーム及びフレームを再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携し、地域に貢献する活動の充実感を覚える職員割合は約84%で、生徒の人間力の育成に効果を上げていると思う職員割合は約90%であった。 「地域に貢献したい」と思う生徒の割合は約81%であり、校外での活動制限がありながらも地域連携、地域貢献に係る取組は順調に進んでいる。 過年度実践の成果と課題を踏まえ、本年度は2年次探究学習の質を一段高いレベルに設定。探究活動に係る生徒の基本的なスキル向上演習を導入し、生徒自らが抽出した地域課題解決に係る提案をすることをテーマに学習活動を展開中である。 探究学習の拡充深化を目指す探究学習ワーキンググループを継続し、3年間をスパンするプログラムスキーム及びフレームの再構築が進行中である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習ワーキンググループでの議論内容を随時教職員と共有し、本校における探究学習の意義及び可能性に係る教職員の理解と意識高揚を図る。 探究学習のより効果的な指導に係る教員研修を開催し、ノウハウの共有と標準化を図る。 探究学習をとおした生徒の自己変容の程度を確認するために、事前事後のアンケートを実施し、定性変化を追跡する。 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を有効に活用し、地域住民が生徒の探究学習活動により深く関われるあり方について検討する。
4	業務改善	<p>校務分掌、任務分担の見直しと長時間勤務者を解消</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の休暇取得を促進した。 業務時間外は留守番電話での対応とし、職員の負担を軽減している。 校内掲示板の活用等により効率的な情報共有を図っている。 部活動の月別計画と実績表の活用により生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務改善のためのICTの活用が十分とは言えない。 時間外業務月45時間以上勤務者の月別平均は1.8人で令和2年度から約2割減であったが、月当たりの時間外業務時間は令和2年度比で11%増となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌再編後の任務分担の見直しができている。 校内掲示板とGoogle Classroomが効果的に活用できている。 全部活動が部活動に係る方針を守り、適切に活動している。 時間外業務時間が、年間360時間を超える教職員が令和3年度（5人）の半分以下になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 対外業務停止日を設定する（夏季休業中、11月4日）。 校務分掌再編の成果と課題を検証し、業務量の適正化を図る。 休養日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 時間外業務の状況を可視化する。 ICTを活用し、業務効率化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌主任を中心に校務分掌再編後の任務分担の検証を進めている。 職員間及び職員・生徒間の連絡ツールとしてのICT活用が進みつつある。 部活動の計画段階で時間外の指導時間を点検し、教職員への意識づけを図っているが、大会引率による時間外勤務時間が多くなる傾向がある。 衛生委員会での協議事項について、校内掲示板にて直ちに報告・共有するとともに、重要課題等については職員会議等を活用して教職員で共有し、業務改善についての自覚を促している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 月ごとに時間外勤務の多い教職員に声かけをし、可能な業務削減策について情報を収集するとともに、その情報を踏まえて衛生委員会等でより効果的な対策等について検討を進める。 ICT活用の職員研修を実施し、職員の利活用スキルを向上させる。 振替休日の取得を促す。

評価基準 A：十分達成 [100%]

B：概ね達成 [80%程度]

C：変化の兆し [60%程度]

D：まだ不十分 [40%程度]

E：目標・方策の見直し [30%以下]